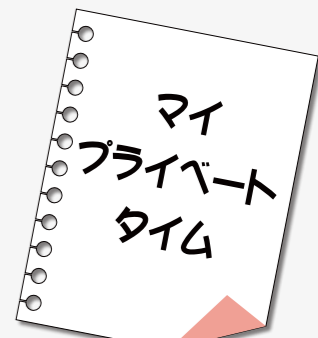


夢はボランティア・コーチ

いなべ市長(三重県) **日沖靖**
Yasushi Hioki



「グラウンドには ダイヤモンドが落ちてくる」

学生時代、私はアメリカンフットボールで日本一になることを目標に取り組みました。卒業後、住友商事に就職しましたが、勤務地が大阪だったため、母校である京都大学のコーチとして、練習台に通いました。

5年後、京都府の国際交流事業で、アメリカ屈指の強豪オクラホマ大学で1年間、2年目はミネソタ州立大学でアメリカンフットボールのコーチを経験しました。その後、母校の専任コーチに戻りましたが、父が病に倒れ、郷里に帰り、家業である農機具販売業を継ぎました。その後、



アメリカンフットボールの試合(京都大学VS関西学院大学)

して5年後、地元の大安町長に就任し、3期8年半、いなべ市に合併し3期10年目を迎えます。この間も継続して、母校に通い、53歳になった今、月に1、

2回母校のグラウンドで防具を着け、練習台を続けています。

一般的に強いチームを作るには、良い選手が、良い練習をすることが必要です。しかし、スポーツ推薦制度も、専用グラウンドもない国立大学がスポーツの分野で日本一になることは奇跡に近いことです。

私も含め大学からフットボールを始めた選手がほとんどで、授業を優先するため練習時間も限られます。多くのハンディがある中、京都大学は過去6度の学生日本一、4度の日本一に輝いています。

アメリカンフットボールというスポーツは選手の交代が自由であり、ポジションによる分業化が可能です。体は小さいが俊敏な選手、足は遅いが体の大きい選手、ボールを投げるのが得意な選手、蹴るのが得意な選手など、さまざまな人材が必要です。そして、作戦タイムが与えられ、11名の選手全員が同時に作戦行動を開始します。従って、限られたポジションの技能の習得であれば、大学4年間で全国レベルになれるスポーツです。また、選手の個性にあった作戦を選択



今も防具を付けて大学の練習に参加



小学校の鉄棒で朝の大車輪。時には失敗することもある。

ルを購入し、老化防止に努めています。

また、ランニングの途中、小学校に立ち寄り、校庭の鉄棒で大車輪をするのが日課です。先月、手が滑って鉄棒から落下、一回転し、偶然、足から着地でき、膝を打撲しただけで済みました。しかし、手が滑った瞬間は、大怪我を覚悟しました。妻に話すと「年甲斐もなく」と言われそうなので、今も内緒にしています。

市長を辞めたら何がしたいですか？と聞かれることがあります。母校アメリカンフットボール部のボランティア・コーチ」と答えています。私のアイデンティティーは京都のグラウンドに在ります。そこから多くのことを学びました。この貴重な体験を次代の若者に引継いでいければと思います。

蕎麦の打てる首長へ

いなべ市は鈴鹿山脈と養老山地に挟まれた扇状地で、朝夕の気温差が大きく蕎麦の栽培に適しています。そこで、蕎麦でまち興しを進めています。蕎麦は



そば打ち段位認定会で初段に挑戦

挽きたて、打ちたて、湯がきたてが命です。蕎麦の産地は伝統的に蕎麦を自宅で打つ習慣があり、いなべ市も蕎麦を打てる人口を増やそうと蕎麦打ち教室を開いています。

今年、全国麺類文化地域間交流推進協議会(全麺協)の素人そば打ち段位認定会をいなべ市で開催でき、私も初段に挑戦し、認定をいただきました。認定会が近づくと毎日、自宅で蕎麦打ちの練習をしましたが、練習をすると蕎麦の生麺ができてしまいます。家族はもちろん、親戚、知人など蕎麦を食べていただく先を探すのが大変でした。認定会が終わって一番安堵したのは妻かもしれません。来年は2段に挑戦。自分、わが家は蕎麦尽くしです。

えてくるものです。困難を避けていては、いつまでたっても見えない世界、その境地を求める試練の場、修行の場がグラウンドです。「グラウンドにはダイヤモンドが落ちてくる」とよく聞かされました。グラウンドの砂をただの砂にするのか、青春のダイヤモンドにするのかは選手自身の取り組み次第です。限界への挑戦。選手は今日、ベストを尽くせたか？ 自問自答する日々を送っています。そんな凛とした緊張感を味わいに3時間の道のりを京都に向かいます。

ところで、防具を付け、グラウンドに立ち続けるためには日ごろのトレーニングは欠かせません。毎朝、起床とともに腕立て、腹筋、3kmのランニングを続けています。昨年、ベンチプレス用のバーベ